

バーチャル空間がひきこもり支援の扉を開く！

北海道大学病院・Mediative・クラスターが産学連携し 「メタバース診察システム」開発の共同研究を開始

【ポイント】

北海道大学病院精神科神経科(所在地：北海道札幌市、加藤隆弘教授)は、医療分野に特化した広報・マーケティング支援などを行う Mediative 株式会社(本社：東京都／代表取締役：畑 拓磨、以下 Mediative)、クラスター株式会社(本社：東京都品川区、代表取締役 CEO：加藤直人)と産学連携し、社会的ひきこもりの状態にある方や精神疾患患者を対象とした「ひきこもり支援のためのメタバース診察システム」の共同研究プロジェクトを2026年6月11日より開始いたします。今回は、まず第一弾としてのメタバース模擬診察を実施いたします(北海道大学倫理審査委員会2026年3月23日承認)。精神科領域におけるひきこもり向けメタバース診察の実証研究は、国内でも先進的な取り組みです。

【概要】

本プロジェクトは、「メタバース診察システム」の構築を目的として、ひきこもり状態やうつ病、統合失調症、発達障害などで北海道大学病院精神科神経科および共同研究機関を受診する患者と、本研究に協力を得られる健常者を対象に、2026年3月23日から2028年3月31日の期間で実施する産学連携の共同研究です。

本研究で実証する「メタバース診察システム」は、日本最大級のメタバースプラットフォームを開発・運営するクラスター株式会社が提供するサービス「cluster」を基盤としたバーチャル空間に構築された診察を補助する空間(以下メタバース診察室)で、アバターを介した診察補助を行う新たな支援手法となります。

メタバース診察室では、医療者(医師、看護師、心理士、精神保健福祉士等)と当事者が対面する標準的な診察室と合せて、患者がリラックスして受診できるようにカウチベットや、希望に応じて医療従事者が同席できる伴走者席を設置し、患者の心理状態に合わせた環境選択を可能にした上で、ヘッドマウントディスプレイを装着して10~15分程度の診察補助を行いながら、視線や動作データの記録・分析を通じて臨床的な有効性を検証します。

アバターを介したメタバース診療補助の活用により、従来の対面診療や互いの顔が見えるビデオ通話による遠隔診療に比べ、対人緊張の強いひきこもり当事者の心理的・物理的負担を大幅に緩和することができ、円滑なコミュニケーションを促進することが期待されます。

【用語の説明】

※1 メタバース：インターネット上に構築されたバーチャル空間で、アバターを用いて他者と交流したり活動したりできるデジタル空間。

※2 ヘッドマウントディスプレイ：頭部に装着して使用する映像表示機器で、利用者は 360 度の映像やバーチャル空間を視覚的に体験することができる装置。

メタバース診察室イメージ図



北海道大学病院・研究メンバー（左から久保太聖心理師・加藤隆弘教授・橋本直樹准教授）



加藤隆弘教授からのメッセージ



ひきこもりの背景に、うつ病や不安症、統合失調症、発達障害などが併存していることも稀ではなく、適切な治療や支援につながるものが回復の重要な第一歩になります。一方で、精神的な症状や対人不安のために、対面での受診そのものに強い負担を感じ、支援につながりにくいケースも少なくありません。私は2013年、九州大学病院に世界初の「ひきこもり研究外来」を立ち上げ、「ひきこもり研究ラボ」を主宰して本人・家族双方への支援法開発を進めてきました。2025年4月からは北海道大学病院を新拠点にして、ひきこもり専門外来を立ち上げるなどして道内での包括的なひきこもり支援体制の構築に取り組んでいます。本プロジェクトではメタバースを活用し、「精神医療につながるまでの距離」を縮める導線整備を進めます。

お問い合わせ先

北海道大学病院精神科神経科 加藤 隆弘 (かとう たかひろ)

T E L 011-706-5160 メール kato.takahiro.secretary@kato-takahiro.com

配信元

北海道大学病院総務課総務係 (〒060-8648 札幌市北区北14条西5丁目)

T E L 011-706-7631 F A X 011-706-7627 メール pr_office@huhp.hokudai.ac.jp